

# 学校支援ボランティアコーディネーター奮闘中!

## 小平市地域教育プラットフォーム

小平市は、東京都教育委員会が進めている「地域教育プラットフォーム構想」の「家庭教育重点支援モデル地区」に指定されています。

市では、14年度より進めてきた「二中地区地域教育サポートネット事業」において、地域資源を活用し、学校を支援するシステムづくりを進めてきました。その中で、多くの方が学校支援ボランティアとして学校にかかわるようになり、コーディネーター部会が、学校支援ボランティアや様々な教育資源と学校をつなげることにより、さらに充実してきました。

地域教育プラットフォームでは、その組織を継続的に活用し、

幼稚園、保育園、大学、社会福祉協議会等が加わり、実行委員会を組織し、多方面から家庭教育支援のシステムづくりを目指しています。そして、今まで、それぞれの組織・団体で行っていた家庭教育支援の問題点を洗い出す中で、相互に連携を図りながら、家庭や地域の教育力を総合的に向上させるため、様々な事業を展開しています。

今回は、小平市が取り組んでいる事業の企画から運営まで、学校支援ボランティアコーディネーター（以下「コーディネーター」と省略）が、密接にかかわりながら取り組んでいる様子を中心に御紹介します。

### 講演会等の開催

家庭教育支援を目的として、小学校、中学校それぞれの課題に合わせた講演会等が開催されました。



「育て未来のアスリート」講演会

「育て未来のアスリート～アスリート」の育つ家庭とは～今の子どもたちに必要なものは何かということや、家庭教育の重要性等について、柴田 東京ヴェルディユース監督（11月21日 参加者92名）が講演され、保護者とパネルディスカッションを行いました。

「中学生の食生活について」中学生の心と身体の発育にかかわる食生活について、林 薫 白梅学園大学専任講師（11月18日 参加者113名）が講演されました。

「不登校など問題を抱えている保護者向けの少人数相談会」不登校を経験した保護者と参加者12名が懇談しました。（12月10日）

講演会等の講師選定から講師との打ち合わせ、当日の進行まで、教育委員会や学校と連携をとりながらコーディネーターが核となって進めています。コーディネーターのもとには、保護者やボランティア等から様々な情報が寄せられるため、人脈を駆使した講師選定ができる強みがあります。（柴田 東京ヴェルディユース監督は、地域の少女サッカーチームのつながり等）

不登校など問題を抱えている保護者向け相談会では、スクールカウンセラーと連携し、地域の不登校を経験した保護者に声をかけ、出席していただきました。相談というより、雑談的に問題の共有化を図り、悩みを抱えている保護者から、好評を得ました。

パネルディスカッションでは、親同士のつながりから、いろいろな子どもの親にパネラーとして参加してもらうこともできました。

さらには、コーディネーターから発案し、教育委員会・学校の全面協力を得て、「プレ1年生体験」を開催するなど、幅の広い事業を展開しています。

#### 「プレ1年生体験」とは

市内の小中学校に入学する新1年生と保護者45組を募集し、現在、小平第六小学校の1年生を担当している3人の先生の授業を実際に体験してもらうという事業。子どもたちが授業を受けている間に、保護者は、コーディネーターの「良い親・悪い親」の寸劇を見たり、校長先生のお話を聞きます。

### リーフレット等の作成

夏休み・冬休みを家庭や地域で有意義に過ごしてもらうための支援リーフレットとして、従来の注意事項や生活記録を書き込むプリントとは違う「小学生版夏休みの過ごし方」（小平第六小学校）や「中学生版冬休みの過ごし方」（小平第二中学校）が作成されました。

リーフレット作成にも、コーディネーターがかかわり、保護者の視点をプラスし、『親子でチャレンジ』『朝食を作ってみよう』『将来どんな仕事をしようかな』『おせちの豆知識』などのコーナーがあり、「一味違うリーフレットに仕上がった」と好評です。



講演会の時の保育

現在は、小学生から中学生までを対象とした「家庭教育支援ブックレット」を作成中です。教育課題アクションプログラム開発研究会「家庭教育支援部会」の先生方と一緒に、コーディネーターも会議に加わり、保護者や地域の視点をブックレットに生かすため、奮闘中です。

### 大学との連携

小平市では、大学との連携にも力を入れています。東京学芸大学（大学院生）に、小平第二中学校で毎週2日程度、生徒とかかわってもらいながら、学校現場の課題の洗い出しを行い、課題



小平第六小学校・小平第二中学校合同での「家庭教育支援ブックレット」の打ち合わせ

を大学に持ち帰り検討し、成果を学校現場にフィードバックさせています。また、保育士志望者の多い白梅学園大学との連携では、主に小平第六小学校での保護者会時や、講演会時に保育を行い、幼児のいる保護者が参加しやすくなり、終了後に、遊び方教室を開くなど相互に成果を挙げています。

### コーディネーターの方々にインタビューしました。

コーディネーターを引き受けた理由は、「個人的に誘われて」「募集があったので応募して」「学校支援ボランティアをやっている学校との壁を取り除こうとしていたら、いつの間にか」とそれぞれ違います。しかし、「学校の中には、やるべきことがいっぱいあって、何でコーディネーターをやっているのか考えている暇などない」とのこと。

「忙しいけど、いやな忙しさではない」「子どもたちの喜ぶ顔を見ると、よかったなと思う」「コーディネーターをやっているだけで、いい子が育つとは、思っていません。でも、子どもたちが大きくなった時に、『そんな大人がいたな～』と思ってくればそれでいいと思っています」